

“13年間の折り返しも間近に”

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本 浩一

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」は、日本中で10万組の子どもたちとそこのお両親に参加していただき、子どもが13歳になるまで成長を見守る大規模な疫学調査です。平成23年1月より環境省と日本各地の15地域とで実施されています。ほぼ、東日本大震災とともに歩んできたエコチル調査は平成29年1月で満6年となり、7年目に入りました。子どもたちは成長し、最初の年に生まれたエコチルキッズは夏頃には6歳となります。現在、2歳から5歳の子どもたちがエコチル調査に参加しています。早いもので、年長の児は折り返しに近づきつつあります。

エコチル調査は全国では目標の妊婦さん10万人を達成し、福島県では1万3千人を超える妊婦さんにご協力をいただきました。この参加人数は福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」であり、出生した1万3千人に近い子どもたちは、保育園、幼稚園、小学校においてクラスの半分がエコチルキッズという、「エコチル同級生」の中で育っていきます。

また、福島県でのみ全県下でエコチル調査を実施し、参加者数が全国15ユニットの中で最も多く、半年ごとの質問票の返却率は4歳時点でも80%を超え、福島の参加者の皆さまの熱心なご協力が全国のエコチル調査を支えています。有難うございます。

現在、全体の5%の方（福島では約650人）に無作為にご協力をお願いする詳細調査も順調に進められています。詳細調査での自宅訪問での環境調査（環境暴露評価）、医療機関等での医学的検査、精神神経発達検査では、ご家族の皆さま、医療機関の皆さまには大変お世話になっています。

「子どもの成育状況、子育て環境が少し見えてきました」

80%を超える参加者からご回答いただいている全体調査の質問票の集計結果から、母親の喫煙や飲酒の状況、子どもと過ごす時間（パソコン・情報端末の使用時間等）、パートナーの育児への協力度、アレルギー疾患の罹患状況、身の回りの化学物質の使用状況、子ども達の睡眠時間などについて全国と福島のデータ比較もできるようになってきました。当ユニットセンターのニューズレターやホームページ「みんなの図書室」でもご覧いただけます。

「全世界が高い評価」

環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言（マイアミ宣言）が出されたことによります。その後、世界でこの問題の重要性が再認識され、日本のほか、ノルウェー、デンマーク、フランス、そして近年、韓国においても国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫学研究が開始されています。昨年（2016年5月）のG7富山環境大臣会合においては、子どもの環境保健に関する長期的で大規模な疫学調査の一つとしてエコチル調査が高く評価され、推進すべきとされました。

「震災後10年、20年と経過してゆく中で」

福島のご家族の一人おひとり、そして関係者の皆さまのご理解とご協力が世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。今後、震災後10年、20年と経過してゆく中で、必ず、「福島のあの頃の子育てはどうだったのだろうか?」、「環境の影響はどうだったのだろうか?」と振り返り、問うときが来ます。福島県におけるエコチル調査はその問いへの準備という社会的責任があります。エコチル調査福島ユニットセンターは参加者の皆さまの様々な思いに寄り添い、参加者、関係者の皆さまと一緒に子どもたちの成長を見守り、歩み続けていきます。そして、1人でも多くの皆さまが、子どもが13歳になるまで継続して参加いただくことが、未来への大きなプレゼントにつながります。

折り返しで、一息つきたいところですが、子どもたちは日々成長しています。後れを取らないよう頑張りましょう。

平成29年3月